

海外新着情報（7月更新）

海外新着情報では、神奈川県との協力による海外駐在員との連携の中で得た「海外での企業活動の現状に関する情報」をご案内します。

○ 中国

・香港の入境規制措置の緩和～中国・香港～

（2021年6月24日）

6月21日、香港政府は香港への入境者に対する検疫措置を以下のとおり段階的に緩和することを発表しました。次の対象者（非香港居民）について入境を認め、条件を満たす者は強制検疫期間を7日間に短縮します。（開始時期については現在検討中）なお、非香港居民の定義について、ビザを持たない旅行者なども含め全ての人が対象になるのか、あるいは短期ビザを持つ人が対象になるのかなどは、現時点では未定です。

【対象者】

・非香港居民で、入境日またはその前14日間、グループB（高リスク国（現在日本はここに分類）、グループC（中リスク国）または台湾にしか滞在歴がなく、かつワクチンを完全接種（入境前にワクチンを所定の回数接種し、かつ14日間が経過）している者。

【条件】

- ア 入境時の核酸検査で陰性
- イ 過去3か月以内の抗体検査で陽性

○ 東南アジア地域

・首都バンコクと周辺5県で新たな行動制限を実施へ ～ タイ・バンコク ～

（2021年6月29日）

タイ政府は、6月28日より首都バンコクと周辺5県で新たな行動制限を実施することを発表しました。レストランの店内飲食禁止や建設現場の作業員宿舎の封鎖などの措置が30日間実施されます。6月21日には首都バンコクの行動制限が一時緩和となりましたが、再び厳格化されることとなりました。

6月28日にはほぼ1か月ぶりに新規感染者が5,000人を超えるなど、依然として感染拡大が続いています。

・7月2日から 39歳以下の外国人居住者などにも新型コロナウイルスワクチンの
接種対象を拡大～ シンガポール ～ (2021年6月28日)

シンガポール政府は6月24日、新型コロナウイルスワクチンの接種対象について、12～39歳の永住権（PR）保持者と外国人居住者にも拡大すると発表しました。7月2日から接種の予約受付を開始します。接種資格がある60歳以上の約75%、45～59歳の77%、40～44歳の70%、12～39歳のシンガポール人の39%が、ワクチン接種を予約したか既に少なくとも1回目の接種を受けています。

○ 北米地域情報

・米国ニューヨーク州における大半の規制解除～ 米国・ニューヨーク ～
(2021年6月16日)

米国ニューヨーク州は、州内で新型コロナウイルスのワクチン接種を少なくとも1回終えた18歳以上の成人が70%に達したことから、6月15日から州政府による規制を解除すると発表しました。具体的には、集会の人数制限、収容人数、社会的距離の確保、消毒義務などの規制が任意となります。

こうした規制緩和は、州政府単位で判断されており、カリフォルニア州でも同様に州内のワクチン接種が進んだことから、規制解除の発表がなされました。

一方で、米国内の公共交通機関や学校などでは、CDCのガイドラインに基づき、ワクチン接種の有無に関わらず、引き続き、マスク着用が義務付けられています。